

第30回日本臨床精神神経薬理学会学術集会 イブニングセミナー2



日 時

2021年1月9日(土)
17:00▶17:50

会 場

WEB開催

オンラインによるライブ配信のみとなります。
(事後のオンデマンド配信はございません)



視聴いただくには大会の参加登録が必要となります。

参加登録方法、その他大会参加に関する情報は大会ホームページをご確認ください。

【第30回日本臨床精神神経薬理学会学術集会HP】<https://www2.aeplan.co.jp/jscnp2020-online/>

勤労者うつ病治療で 薬物治療が果たす役割

座 長

医療法人翠松会 岩城クリニック 理事長

兼田 康宏 先生

演 者

北九州古賀病院 / 産業医科大学医学部精神医学教室 講師

堀 輝 先生

共催：第30回日本臨床精神神経薬理学会学術集会/
ヴィアトリス製薬株式会社/大日本住友製薬株式会社

EFX93L005A

2020年00月

ヴィアトリス製薬株式会社 作成

勤労者うつ病治療で 薬物治療が果たす役割

堀 輝 先生

北九州古賀病院 / 産業医科大学医学部精神医学教室 講師

我が国のうつ病にかかるコストの概算は数兆円といわれている。コストで最も大きな割合を占めるものとしては、欠勤や休職または働く機能が低下しているといった点である。つまり医療や福祉的な側面というより働く機能が低下しているといった点である。うつ状態の時には、気分が低下するのみならず、認知機能の低下をはじめとした就労機能が低下する。また就労機能の低下は、その後の休職や欠勤を予測するために治療の際に十分注意すべき点である。

我が国におけるうつ病薬物治療の課題としては、

- (1) 最初にどの薬を処方すればよいのか？
- (2) HAM-DやQIDS-Jの改善で十分か？
- (3) わが国のうつ病治療に関しては、施設ごとにばらつきが大きい？
- (4) アドヒアランスの低下に対してどのように対応するのか？
- (5) JSCNP専門医が考えるうつ病治療

本シンポジウムでは、これらの課題について紹介して勤労者うつ病患者治療について主に薬物療法について、薬物療法での治療が不十分な場合の補完的な治療についても触れ就労機能の改善も考えた形での治療の一工夫などについても深めたいと思う。